

障害者団体ヒアリングの概要

(1) 犬山市身体障害者福祉協会

日時：令和5年8月28日（火）

1 啓発・広報の推進について
<ul style="list-style-type: none"> ◆協会の会員は高齢者が大部分のため、twitterやLINEのようなSNSは使用できない場合も多いが、犬山市の公式LINEを利用している者もいる。 ◆今年の4月から5月から、広報が月1回に変更になったので、協会の行事を載せていただくためには、早めに対応することが必要になった。 ◆広報を読んでいる人がどれだけいるのかと考えると、多くないかもしれない。情報を伝えるツールが広報だけだと、なかなか伝わりにくいように思う。 ◆視覚障害者や聴覚障害者では、それぞれ使えるツールが違うので、難しい面もあるが、ワーキングチームではご意見を聞いていただき進めていただけて、よかったと思う。 ◆障害者への理解度の変化については、障害の種類によってさまざまだと思う。見た目で障害が分からないような場合は、理解が深まったかどうか分からない。法律等が整備されてきたが、理解が深まったという実感はない。ただ、視覚障害や聴覚障害の方や車椅子の方に聞けば、違う回答が得られるかもしれない。
2 保健・医療施策の充実について
<ul style="list-style-type: none"> ◆病院では、特に障害者用の窓口があるわけではなく、一般の人と同じ窓口を利用している。 ◆協会の会員で特段、不自由しているという話は聞かないし、相談を受けたこともない。 ◆今は動けている状況のため、不便は感じていないが、障害がこれ以上進んだときのことは分からない。
3 福祉サービスの充実について
<ul style="list-style-type: none"> ◆ある程度高齢になると、多くの人が障害者になり得る。今は障害者の枠の中にいる人も、いずれかは介護保険の適用を受けるようになると思う。介護保険との兼ね合いもあるが、その線引きも難しいと思う。そのようになったときに、どこに相談すれば良いのかが知りたくなると思う。 ◆協会の役員は、福祉サービスを受けていない方が多いが、重度障害の方の意見は分からない。 ◆目が見えない車椅子の方が、同行援護をお願いしたくても、予約は1か月前にする必要があるということで、困っているという話を聞いた。買い物等の必要があっても、急には出かけられない。 ◆福祉分野は、どこも人材不足で、なかなか要望に応えられないという話をよく聞く。移動に関する同行等のスタッフは不足、どこの事業所でも困っている。 ◆協会としては、視覚障害者の方から要望を受けることが多く、その都度、市長面談を通じて具体的なお願いをしており、多くのことを実現していただいている。点字ブロックの設置等もお願いした。ずっと前に、駅のエレベーター設置も要望として挙げていたが、数年前に実現した。駅の入口の音声案内や、市役所の前の音声案内も実現した。ただ、これらは一部の人の声であり、障害者全体の要望は把握しきれていない。
4 障がい者の地域理解や交流について
<ul style="list-style-type: none"> ◆近所付き合いが希薄になったためなのか、どこに、どのような方が住んでおられるのか、分からない。障害者がどこにいるのかも知られていないので、とても交流ができる状況ではな

いと思う。

- ◆スーパーで電動車いすの方が、店の中を何度も回っていた。棚の上のものが欲しかったようで、従業員も近くにおらず困っていた。困ったときは遠慮せず、自分から声を上げることも必要だと思う。
- ◆障害のあるなしに関わらず、必要なときには声を出し合うということが、交流につながると思う。
- ◆電動車いすやシニアカーは、入れない場所もある。そのようなところでは、普通の車いすに乗り換える必要がある。総合病院等では、許可制にして入れるようにしていただけると助かる。1人で外出できる範囲が広がれば、同行の人材不足解消にも有効だと思う。
- ◆世間に、シニアカーや電動車いすが歩行者扱いだということが周知されていない。そのような福祉用具の存在を知らない人も多いと思う。
- ◆道路のU字溝の三角の溝に、杖の先が入り込み、抜けなくなることが多く、何年も前から改善してほしいと依頼しているが、なかなか進まない。
- ◆点字ブロック等の誘導ブロックが歩行に邪魔だという方もいる。高齢者は少しの突起でもつまずくことが多いようである。

5 障がい児の療育・教育の充実について

- ◆自閉症の子どもも学校で十分な教育を受けさせていただき、就職して10年を超えており、感謝している。

6 雇用・就労の促進について

- ◆透析を受けていると、2日に1回は病院に通わなければいけないので、就職することが難しい。
- ◆職場の同僚や上司の気質によっても、就労を続けられるかどうかが決まるという話を聞いたことがある。
- ◆障害者雇用の際にも、透析をしている人は不利で、断られることが多い。

7 生活環境（移動・交通・住宅環境等）の充実について

- ◆コミュニティバスを利用するが、バスとバス間の時間が長いと感じる。
- ◆土日もコミュニティバスを運行して欲しいという声を聞く。障害のない方に限らず、市の施設を使用しようと思っても、そこに行く手段がないという話も聞く。土曜日の午前中は、多くの医療機関がやっているのだから、利用したい人は多いと思う。
- ◆中央病院以外の病院の近くにはバス停がないので、利用しにくいという話も聞く。
- ◆避難所に指定されているところは、すべてバリアフリー化をして、洋式トイレを整備して欲しい。選挙のときに、学校の体育館に簡易のスロープがつくられるが、必要なときに、すぐ用意できるのであれば、あのような形でも良い。
- ◆病院や公共施設での電動車いす、シニアカーの利用については、どのような運用がされているのか調べて、対応を検討していただきたいと思う。

8 防犯・防災対策の充実について

- ◆避難所が遠かったり、避難所までの道が暗かったり、階段が多かったりするので、避難所に行くことはなく、自宅にいる。
- ◆避難所への道のりが改善されたとしても、できれば自宅にいたいと思う。
- ◆避難所はだいたい学校の体育館だが、地域の集会所のような身近な所を避難所として活用できれば、利用しやすいと思う。近い所に何か所か避難所があれば良いが、管理は難しいかもしれない。
- ◆災害に備えて、水や日用品、食品の備蓄は余分にしている。なくなる前に買っている。

◆家族の分も含めると、1週間分の飲料や食料は大量である。乾パンや缶詰を用意している。段ボール製の簡易トイレが欲しいと思っている。
9 スポーツ・文化活動の促進について
◆ボッチャの交流会の際に、「子育て広場ぼんぼこ」の子どもたちと交流できたことは、大変良い体験だった。いつもは協会の中だけのイベントのため、大変楽しかったという感想を聞く。 ◆スポーツ振興課等に声かけをしていただけると、実施しやすいと思う。
10 情報アクセシビリティ（利用のしやすさ）について
◆市役所の安心メール、LINE等は利用している。地域のきめ細かい情報が毎日届いている。やり方を教える講座があれば、利用しやすいと思う。 ◆災害時に停電になれば、メールやLINEが使えなくなる不安はある。 ◆手話や点字、拡大文字を普及させるための条例は、つくるだけでなく、具体的にどのようにしていくかが重要だと思う。協会の中でも、視覚障害、聴覚障害の方は、身体は健常者と同じで、仕事をされている方が多いので、接点が少ない状況で、それを改善したいと考えている。条例ができるのであれば、良い機会だと思う。 ◆会員同士のコミュニケーションにLINEを使っている。
11 差別の解消と権利擁護について
◆差別は、若い人ほど敏感に感じる傾向にあると思う。私もいろいろな思いをしてきたが、今になって「いのちを大事にしてきてよかった」と感じる。若いころは、周囲の人の視線が怖く、いじめられたこともあったし、仕事が進まずプレッシャーを受けたこともあった。 ◆後から障害をもった人は、それほど感じていないように思う。生まれつき障害のある人は、小さいときから傷ついてきている。 ◆子どもは、思ったことを言葉にしてしまうので、怖いと思う。子どもに対しては、教育するしかないと思う。クラスに障害をもつ子どもがいれば、意識が変わるかもしれないが、現状では学校やクラスが分かれているので、障害者と接する機会は少ないと思う。 ◆会社も理解があるところと、そうでないところがある。

(2) 犬山市心身障害児（者）父母の会

日時：令和5年8月1日（火）

1 啓発・広報の推進について
<ul style="list-style-type: none"> ◆広報の表記の最近の傾向として、「障害児・障害者」を「お困りの方」などと表現するために他の困り事相談と区別がつかず、本当に必要とする記事を見落としてしまっている。 ◆広報一冊のページ数が多く全ページを読み切れないために、障害者向けの記事を一か所にまとめ、障害者向けと分かりやすいように目次に見出しをつけて掲載して欲しい。 ◆父母の会としては広報だけでなく速報も含めてLINE（SNS）で情報を流して欲しい。 ◆市の安心メールには登録しているが、さらに生活情報メール（街角メールなど）も設けて、生活全般に役立つ情報を発信して欲しい。 ◆広報に掲載する地域のイベント情報には、会場内のバリアフリー情報をかっこ書きで特記して欲しい（トイレ、スロープ、障害に配慮した事項など）。 ◆障害者でも参加可能なのか判断がつきにくいために、参加可能であれば備考欄に「障害者や高齢者の方はこちらにご連絡ください」などの案内を補足して欲しい。
2 保健・医療施策の充実について
<ul style="list-style-type: none"> ◆ショートステイやレスパイト入院の利用時には介助サービスが頼めないことから移動支援のために同行するが、本人は事業所の車で送迎してもらうものの同行した家族の帰宅手段がないことに困っている。サービス利用時の同行者への配慮も充実させて欲しい。 ◆近隣の総合病院に専門医がないことが問題。どうしても医療療育総合センターに頼らざるを得ない。犬山市内にも連携する病院があれば、家族の負担の軽減にも繋がるので、医療療育総合センターは緊急時のみの利用という医療体制を整備して欲しい。 ◆近隣の大型病院は、江南厚生病院と小牧市民病院があるが、医療的ケア児に対して退院後のフォロー充実して欲しい。 ◆レスパイト入院の受け入れも、スタッフ不足と希望者急増から受け入れが困難になっていて、コロナ禍には何度も断られた。 ◆スタッフが手薄という理由で各種福祉サービスが利用できないことが増えている。入院時の入浴や洗濯といった衛生面に関わるサービスにまで影響が出て来ている。
3 福祉サービスの充実について
<ul style="list-style-type: none"> ◆ヘルパー不足から移動支援サービスが減少していて、子どもを連れての外出が負担である。 ◆通所支援事業所が減少し、定員オーバーのために思うようにサービスが利用できないので誘致して欲しい。 ◆小牧のデイサービスが突然閉鎖になり、犬山市のデイサービスに移ったが、利用時間は月に一回2時間のみ。公共交通機関を使った散歩（移動支援）は子どもにとって様々な社会勉強になるために利用させたいが、次々と閉鎖になるために障害児の保護者は皆、常にさがしている。 ◆ヘルパー不足から日中一時支援と移動支援の利用が特に困難で、自分たちの都合では預けることができない。新規契約はできない状態。 ◆リアルタイムの情報が必要。
4 障がい者の地域理解や交流について
<ul style="list-style-type: none"> ◆地域行事にはなるべく子ども連れで参加している。父母の会のイベントには民生委員を、クリスマス会には犬山高校の学生などと呼んで交流を深めている。

- ◆地域行事の際に参加可能かどうか迷うため、広報の行事予定表に障害者や高齢者の参加可否についての表示が欲しい。声掛けの一文があるだけでも参加しやすくなる。
- ◆集まりの場になっている隣人宅を子どもとともに訪問し、地域の防災情報などを仕入れている。障害児本人を連れて行くことで周囲の理解が深まり、自然に協力してもらえる体制が生まれる。
- ◆通勤路では、地域住民の見守りにより、迎えに行けない時も不安がなく感謝をしている。帰宅時のみ徒歩だが、面識のない人でも優しく声掛けをかけてくれるので子どもが自から挨拶ができるようになり、人との交流を楽しんでいる様子です。

5 障がい児の療育・教育の充実について

- ◆一宮東特別支援学校も小牧特別支援学校も通学に時間がかかるうえに、児童が増加して低学年はスクールバスにも乗れない状態で、保護者の負担も大きい。
- ◆障害児が増加しているので、学校に特別支援学校教諭が常勤する特別支援学級を設けて欲しい。
- ◆特別支援学校、特別支援教室、普通学級と子どもの特性に合った教育が選べる選択肢を増やして欲しい。障害があっても生き活きと過ごせる場所があればこれから就学を迎える若いお母さんの不安も減り、子どもの将来にも繋がると思う。
- ◆グレーゾーン（発達障害）が増加し、悩みを抱える子どもも保護者達も増えつつある中で、他校との兼任ではなく各学校ごとの選任スクール・コーディネーターにサポートをお願いしたい。専門的な判断ができるスクール・コーディネーターが常駐していれば、例え普通学級でも問題なく学べる体制ができ、保護者の安心にも子どもの未来にも繋がると思う。

6 雇用・就労の促進について

- ◆作業所の情報も障害者雇用の情報も入手する手段がないので、障害者のためのすべての情報を包括する窓口を設けて欲しい。
- ◆ジョブコーチの就労支援がないと就労継続が難しいのが現状。周囲の人の変化に敏感で、上司の異動やジョブコーチの変更があると対応できない。
- ◆職場環境の変化が課題で従業員の定着率が悪い職場にはついていけないので、就労継続支援事業所または障害者就労センターの募集要項に雇用する障害者の勤続年数も表記されていると目安になると思う。
- ◆各企業内の障害者雇用の実態や具体的な就労環境、労働条件などを取得する手段がないこと、情報網がないことが就職をより困難にさせていると思う。
- ◆作業所で習得した農業技術で生計を立てられたら理想的かと思う。
- ◆障害者雇用の意思がある場合には、企業内の具体的な雇用環境について、媒体を通して公開して欲しい。

7 生活環境（移動・交通・住宅環境等）の充実について

- ◆市営巡回バスが土日運休のために、公民館で開かれる障害者の講座へ行くための交通手段がない。障害者が一人で出かけられる自立できるまちづくりが必要。
- ◆運転免許を持たない障害者が多いため、土日開催の行事には一人で参加ができない。
- ◆市内公共施設内の設備がバリアフリー対応ではなく、ストレッチャー付き車椅子が使用できないために利用が困難であり、配慮して欲しい。
- ◆今後の公共施設の建築予定には、障害者や弱者の具体的な意見を取り入れるための機会（ユニバーサルデザインのための意見聴取）を設けて欲しい。

8 防犯・防災対策の充実について

- ◆騒音や混雑した状況が苦手であり、避難所内に隔離された部屋があれば一時避難ができる。（地区の避難所が南小学校であり教室間で分けてもらえれば避難ができる）

- ◆現実的には避難所にもバリアフリー対応が必要だが、指定された避難所に設備がない場合には自宅待機になるので、選択肢として、避難所ごとの詳細な情報公開が必要。
- ◆避難行動要援護者名簿の用紙に必要事項を記入して提出したが、誰からの声掛けもなく周囲の理解が得られているのか不安なために、話し合いの場を設けて欲しい。
- ◆避難行動要援護者名簿の記入欄を年に一度、更新のたびに書き換えているために、訂正箇所ですり減り余白がない。新しく用紙を配っていただけて作り変えて欲しい。

9 スポーツ・文化活動の促進について

- ◆自立支援協議会のひだまり作品展に参加しているが、他の障害者団体と交流できるので感謝している。南部公民館の開校講座も余暇を楽しむ障害者の役に立っている。
- ◆受講には予約が必要だが、時間に縛られずに出かけたという思いがあり、外出の折に気軽に利用できる教室や講座が通年を通して開催されていれば嬉しい。
- ◆父母の会でもダンスセラピーを月に一回、開催しているが、子どもが1人で参加できないために保護者に負担がかかるので、市の事業に障害児が1人でも参加できる取り組みがあると嬉しい。
- ◆ワークショップが開催されているが、作品の完成までに時間がかかるために参加回数が多く、予定が立たずに参加を断念する。短時間で完成する作品であれば、より多くの家族の参加がのぞめると思う。

10 情報アクセシビリティ（利用のしやすさ）について

- ◆特別支援学校の関係者や保護者向けに、父母の会の情報を発信してもらいたい。
- ◆父母の会の存在を知らない若い保護者にも活動を広めたい思いがあるが、個人情報保護により特別支援学校から紹介してもらうこともできない。そのため父母の会の役立つ情報を広報で紹介してもらっているが、若い世代は広報を読まないの、なかなか周知されない。市のSNS上で紹介して交流の意思を伝えて欲しい。
- ◆通所する事業所が利用者本人に役立つような市のリーフレットでも配布することがないため、本人が情報を知る機会がなく判断するという選択肢もない。最近は特別支援学校でもリーフレットの配布を控えているが、多くの情報に触れることで子どもたちの視野が広がると思うし、経験にも繋がる。判断できないという偏見が学習や経験を阻害していると思う。
- ◆紙媒体がアプリに代わって必要な情報だけ選んで閲覧するという時代かもしれないが、事業所が保護者にも何も伝えないことから、父母の会の会員以外の保護者は必要な情報も知らないまま過ぎていていると思う。

11 差別の解消と権利擁護について

- ◆保護者に心の余裕がないと子どもを思いやるという気持ちにはなれない。
- ◆学校や病院や事業所の支援があってこそ今の状態が維持できている。職員の異動がない事を願っているので、職員への市の支援をお願いしたい。
- ◆一般にヘルプマークが理解されていないと感じる。とくに若者は無頓着で弱者への配慮が浸透していないので啓発が必要。子どもたちが学校でヘルプマークの教育を受けると親たちにも広まるので、さらに学校での周知をお願いしたい。
- ◆都会では車椅子の障害者も電車で移動するところを見かけるので認知されているが、地域性もあると思う。

12 その他

- ◆障害児の特性から一般と同様の撮影方法では写真が撮れないため、マイナンバーカードの写真撮影にも配慮して欲しい。他の自治体では市役所が状況を把握したうえで工夫をしている。
- ◆手話や身体や精神など他の障害者との横の関係がないために、他の父母会と交流を持ちた

い。

◆相互理解を深めるうえでも新たな発見のためにも、他の障害者団体と合同のヒアリングを実施して欲しい。

(3) 精神障がい者家族会犬山しらゆり会

日時：令和5年7月8日（木）

<p>1 啓発・広報の推進について</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆広報に関しては、万が一の場合を考えて相談日の日付や曜日を確認するためにきちんと目を通すようにしているが、自治体のコスト削減により発行回数が目減りし、一部あたりのページ数が増えていることから全ページを読み込むのに時間がかかる。全国的にもコスト削減がエスカレートする中、一層読みにくくなっていくのではないかと懸念している。 ◆例えば広報のページのタイトル部分に、福祉、政治、犬山市の経済、行政計画などと項目別に見出しをつけて目次のように表記してあれば、介護で時間の取れない家族にとっても一目で探すことができ、読みやすいと思う。 ◆精神障害者にはスマートフォンが苦手な人も多く、紙媒体であれば大きな文字で何度も読み返す事ができるため、紙の方が読みやすく便利である。 ◆子どもの状態によってはスマートフォンのWebページを長時間閲覧する時間が取れないこともあり、精神障害者の家族としても広報のデジタル化には反対ですし、広報の月一回化にも反対である。 ◆広報に掲載されている内容が福祉相談日の告知のみで、相談内容の具体例が掲載されていないことが、精神障害者の家族が相談を躊躇してしまう理由でもある。
<p>2 保健・医療施策の充実について</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆18歳未満に精神疾患を発症して精神障害者保健福祉手帳を取得し、継続して更新している場合には親や家族の経済的な負担も軽減できるが、成人してまもなく発症した方については区分認定がおりず、医療費助成や社会保険の控除も受けられないまま不利な状況に立たされるケースが多くある。申請や交付にかなり手間取る場合や取得できず苦慮されている場合も多く、家族会としては深刻化する問題に困惑している。 ◆成人後に発病した場合、手帳取得が非常に困難。 ◆未成年で発症した知的障害が成長すると精神疾患に陥るケースが非常に多く、成人した頃には精神疾患の医療費が大半を占めるが、療育手帳を取得している場合には療育手帳の医療費助成制度が優先であり、精神障害者保健福祉手帳を利用しない。成人後に精神障害者保健福祉手帳を申請しようとする、保健所か市役所の幾つもの窓口を転々とし、手続きが一向に進まないという問題点がある。（親が療育手帳を申請することはなく、学業期に知的障害が発覚すると学校側が特別支援学級への手続きを進めてくれるため、自動的に手帳を取得することができる） ◆特に問題を抱える家庭としては、グレーゾーンで普通学級に通学していた子どもがやがて成人して精神疾患に罹患した場合で、福祉や障害に関する知識や情報もなく、既に両親が年老いているために申請や相談への同行もできないために最初の窓口にも到達できないケースが多く、問題を深刻にさせている。 ◆ピアサポーターは地域活動支援センターに常駐していて市役所にはいない事も課題。ピアサポーターは日が浅く、ピアカウンセリングの情報を知らない家族も多いです。 ◆療育手帳の医療費助成制度を利用しているので、相談には市の知的障害者相談室に行くが、専門でないために解決には至らない。市役所内に精神障害専門の相談窓口があっても良い。相談窓口は増えたが、相談後の対応がなく、悩みを聞いてもらうだけの相談窓口になっている。 ◆精神障害者は廃人ではないと思っているので、医療保護入院から社会復帰ができるよう、地域移行の受け入れ態勢が整って欲しい。

- ◆身近な問題として、精神科へ受診もせず家に引きこもり、深夜になると騒ぐような「医療に繋がっていない精神疾患患者」に対してはどのように対応したら良いか。本人に自覚がないため、相談に繋がらず介護する母親も神経症を患う危険性がある。
対策としては、家族以外で受診を勧める事ができるような良き理解者による忠告が必要で、本人からの信頼を得て距離感を縮めるためには、善意による連続的な訪問が必要だと思う。本人が構えることのないよう、自然体で話ができるような間柄の人物が適任である。逆に強制入院をさせて隔離をしたことにより落ち着きを取り戻し、社会復帰して自立できた例もある。それには母親（近親者）の意志や決断が必要。
- ◆精神科での待ち時間が長いとその間に病変する事があるので、暴力が絶えない場合には、（家族のレスパイトケアという面でも）医療体制が整い、適切な服薬投与もなされる医療保護入院が最も適切だと思う。

3 福祉サービスの充実について

- ◆引きこもり等で受診できない場合に精神科の主治医の依頼による訪問看護サービスは利用できるが、精神科やメンタルクリニックの医師による訪問医療サービスがないため、例えば手帳取得や更新のために医師の意見書が欲しくても手に入れる事ができず、申請や更新もできない。
- ◆障害者福祉年金の更新も医師の診断書の提出が必要だが、本人が精神科を受診できない場合には更新手続きに支障をきたす。「代理人による手続きは受け付けない」という制度上の制約は、外出が困難な精神障害者にとっては死活問題となっている。
- ◆福祉サービスが使えないのではなく、福祉サービスを使いたいという意思が本人や家族にあれば使えない時代ではないと思うので、本人や家族を説得する方法が課題。
- ◆犬山市にはグループホームがないことが課題。施設の短期入所サービスが精神障害者も利用できるのであれば、もっと周知して欲しいと思うし、グループホームには短期入所サービスがないが、受け入れてくれる施設があれば短期入所を利用したいと思う。
- ◆長年にわたり犬山市は精神保健福祉サービスの多くを犬山病院に依存しすぎていると思う。近隣の市町に比べて福祉サービスが遅れている原因も、犬山病院に依存しすぎているためだと思われるが、犬山病院は大きいといっても病床数に限りがあるため、10年間変わらない体質を改めるためにも、市が動かなければいけないと思っている。
- ◆犬山病院も精神病の患者のみを受け入れているわけではなく、老人性の認知症なども受け入れているため、今後について検討して行かなければならないと思う。親亡き後の問題にも通じていて、名古屋市等では若年でも入所可能なグループホームなどの入所施設があり、そこを生活の拠点にして暮らしている。
- ◆親亡き後の障害者支援として、精神障害者が自立して安心して一人暮らしができるシステムを構築して欲しい。例えば、ピアサポートなどのサポートを受けながら、また、一時預かりなどの福祉サービスを利用しながら、精神病院に収容されるのではなく、1人暮らしが送れるようなシステム。今の制度ではまったく進歩がないと思う。
- ◆成年後見人がついたが、関わり方が分からない。行政との関わり方や成年後見人との関わり方など、様々な悩みを聴いてくれる相談相手が欲しい。

4 障がい者の地域理解や交流について

- ◆やはり地域住民の声掛けや見守りは必要。地域の見守りがないと孤立した精神障害者の危険を察知することができないし、危険を感じる場合は地域住民で助け合えるような連携と共助が必要。
- ◆近隣住民が危険だと思っても、障害者本人が家族の忠告を聞かない、または家族も動かないような場合に対する相談機関が必要。行政の窓口ではなく、地域内に誰もが気楽に相談できる窓口を1か所設置し、そこから医療や保健や福祉の専門機関に繋げ、障害者の両親も説得してもらえるような包括的な機関があれば最適だと思う。
- ◆最近特に、地元の方たちが何も口を出さずに見守ってくれている事を感じる。良い関係を保

<p>つためには、当事者の父親や母親が常に明るくふるまい、周囲を安心させる事が必要かと思う。</p> <p>◆地域との関わりを断つことがないように地域活動にもきちんと協力することで、地域の人にも理解をされる。家族が地域と関わり合いを持つ事が大切。</p>
<p>5 障がい児の療育・教育の充実について</p>
<p>◆市役所の障害福祉担当者が状態を把握しているだけで、他の福祉関係者に情報共有されていないように感じる。庁内でも情報共有されていないために、部署や窓口を移動すると手続きが繋がっていかない。パソコンでデータ化してもいいし、マイナンバーカードに保存してもいいし、健康保険証に紐づけてもいいので、福祉関係の個人的な情報はオンライン化にして欲しい。医療や福祉など、すべての関係者が状態を正確に把握していれば、家族も行政に相談しやすい。</p> <p>◆特に福祉関係の窓口は、一括して本人の情報がわかるようなワンストップ化が必要。</p> <p>◆市役所の相談にたどり着けない家庭こそ最も問題を抱えている家庭である。</p> <p>◆現在の市の制度は非常に使いづらいし、思いやりが無い。痛いところに手が届くようなシステムで、困っている事に気づき、家まで走って来てくれて親御さんの悩みに気軽に乗ってくれるような制度が必要。介護や看護の専門職でないと難しいと思う。</p>
<p>6 雇用・就労の促進について</p>
<p>◆非正規社員として20年間働いているが、会長と社長は理解があり一般社員の方と働いていることで張り合いがあるし、自信が持てる。</p> <p>◆中学から高校にかけて不登校を経験し発病した。牧場で農作業をしながら作業療法が受けられるフリースクールに通ったところ、精神状態が安定し、見違えるほどたくましくなった。期間は2ヶ月程度だったが、非常に効果があったと思う。復学し、心理学を専攻するために大学にも進学し、一般就労ができたのはそのおかげだと思う。</p> <p>◆働きやすい環境、困った時に話を聴いてくれる職場環境、良い人間関係が、障害者でも長期で働き続けることができる要因。ストレスを溜めてしまうのでストレス発散が重要だが、障害者雇用に配慮した働き方の支援や社内間の思いやりなどに助けられて長く続いている。</p>
<p>7 防犯・防災対策の充実について</p>
<p>◆災害にみまわれた時に精神障害者はどうなるのかという不安は常にある。避難所に避難しても、子どもは一般の人と同じように行動できないし、環境が変わって状態が悪化するだろうと思う。</p> <p>◆避難指示に従えば避難所で状態が悪くなるだろうと思われ、周囲も親も大変であり、自宅の二階に留まり自主的に防災するしか方法はなく、そのため災害への対策は十分に行っている。</p> <p>◆高台に住んでおり、避難所までの道程がかえって危険なために避難指示に従う気はない。</p> <p>◆地震以外は慌てる必要がないと思っている。犬山のような地盤の固い土地で災害が発生するのであれば、近隣に避難場所はないと思われ、自助努力が必要かと思うので、家族が騒ぐ事なく本人を落ち着かせることこそ重要だと思う。</p>
<p>8 スポーツ・文化活動の促進について</p>
<p>◆しらゆり会では文化活動として、ひだまり作品展に参加しており、応募作品のなかで、障害者本人が元気だったころの油絵は評判を呼んだため、これからは絵画、作文、詩など募集し、出展したい。</p> <p>◆市民の美術展にも子どもの状態の良い時に出かけて鑑賞したが、興味を示さないのが、公民館講座への参加も本人の興味次第だと思う。</p> <p>◆屋外で日光を浴びる運動は精神疾患治療に有効であり、屋外プールでの水泳を希望しているが、市内のプールが閉館になり犬山市には屋外プールがない。近隣の市町には温水プールが</p>

<p>整っているが、屋内であることと温水を嫌がるために、北名古屋市まで足を運ばなければならない。北名古屋市の屋外プールは、障害者が無料で付き添いも無料であるため、遠くても出かけて、子どももとても喜んでくれる。犬山市内の小学生も同様の意見で、小学生も希望しているので、犬山市に屋外プールの設置を検討して欲しいと思う。</p> <p>◆次々と近隣市町の屋外プールがなくなっているが、児童にとっても障害者にとっても最も健康に役立つ施設だと思う。他にコストのかかる施設はいくらでもあるので、スポーツ・文化施設として見直して欲しいと思う。</p> <p>◆地域包括ケアシステムの在り方についても、地域住民すべてを対象にしているために、精神障害者は人と会うことも、会話することも、付き合うことも、グループで仲良くすることも苦手な人たちが多く、子どもに役立つと思われるような行政の取り組みがなかなか見当たらない。</p>
<p>9 差別の解消と権利擁護について</p>
<p>◆成年後見人に不信感を抱いている。</p> <p>◆成年後見人に預金通帳の隅々まで把握される事に対して、法律の知識がない自分にとってはかなりの不信感があり、誰が見方で誰が敵なのかもわからなくなり孤独感を感じている。ヘルパーをつけたくて、ケアマネージャーにも頼んだが、自分で探すようにという回答で、また、成年後見人に辞任したいと言われ、誰に相談すれば良いのかと困惑する。そのことから近親者までもが信用できなくなり人間不信に陥っている。</p>
<p>10 情報アクセシビリティ（利用のしやすさ）について</p>
<p>◆スマートフォンを持っていないので、情報に疎く、そのため不安が増大するが、市役所に相談に行くことも難しいと思う。</p>
<p>11 その他</p>
<p>◆子どもが精神科に入院していて、2週間を過ぎても容態が変わらず不安が募る。親の亡き後の心配が尽きず、相談先を求めている。</p> <p>◆行政が情報を一つずつ拾い集めてひと家族毎に支援の手を差し伸べないと、障害者や家族が抱える本質的な問題は解決しないと思うので、個人情報乗り越えて情報収集を行い、次に繋げて欲しいと思う。</p>

(4) 犬山市児童発達支援利用の保護者

日時：日時：令和5年9月1日（金）

1 福祉サービスの充実について
<ul style="list-style-type: none"> ◆療育等を利用させていただき、大変ありがたいと思うし、本人たちのためになっていると感じている。できれば、月23日という上限をなしにさせていただき、いつでも勉強等ができるようにしていただけると非常に助かる。上限を超えないように調整しないと事業所にも迷惑をかけてしまうので、いつも気にしている。 ◆9時半からの利用のため、親は働きたいと思っても、仕事が限られてしまっている。もう少し早い時間から利用ができるとありがたいと思う。 ◆放課後等デイサービスや児童発達支援センターの利用時間については、兄弟で違うサービスを利用しているので、融通がきくと大変ありがたいと思う。時間が少しだけずれていることで、負担が大変である。 ◆4月に手帳をいただき、利用している。他のサービスは利用していないので、困り事はない。 ◆上限日数以外にも、定員に空きがなく、週に2回しか利用できない等、事業所の体制の都合で、希望の沿った利用ができないこともある。他の事業所と掛け持ちで利用して、利用回数を増やす等の必要がでてくる。事業所の体制を整えていただき、利用限度まで使えるようになることがありがたいと思う。状況としては、希望と現実が合致していないが続いている。 ◆児童発達支援センター喜璃夢を利用しているが、先生方のご指導が大変すばらしく、理由に基づいて「このようにするんだよ」という流れで進めていただいている。ただ、そのような指導をしていただけない事業所もある。できれば、市の担当者は、新しい事業所や疑わしい事業所に訪問、点検していただきたいと思う。内容は充実していないけれども、子どもを集め、料金だけいただいているのではないかという疑いのある事業所もいくつかあるように思う。市役所に監視の目をもっていただき、安心して子どもを通わせたいと思う。 ◆児童発達支援センター喜璃夢を利用しているが、とても良い対応をしていただいている。他の施設では、母子分離ができていない子どもは、年長まで付き添わなければならないとか、お弁当をつくる必要があると聞かすが、喜璃夢では母子分離をしていただけ、給食も出していることありがたいと感じている。 ◆複数の子どもがいることで、子育てに体力も消耗し、話しをする相手もおらず、孤立気味。保健師はたまに電話をしてくれるが、会って、子どもの様子を見ながら、現状の相談をしたいと思っても難しい状況。そのような孤立気味の保護者には、訪問等の支援や、決まったサポーターをつけて、定期的な対応ができると良い。会って、ほんの少し話をするだけで、「助けてくれる人がいる」という安心感が生まれると思う。 ◆父母会でいろいろな方と交流したいという思いはある。広報に少し情報が載っているが、もう少し積極的に啓発していただけると良い。気軽に参加できることをPRすれば、参加したいと思う人は多いはず。土日だと子どもがいて参加しにくいので、回数を増やしていただき、平日にも開催されると良い。
2 障がい児の療育・教育の充実について
<ul style="list-style-type: none"> ◆障がい児保育枠で、5歳の子どもを保育園に通わせているが、空きがなく、家からとても遠い園に通っている。年長のため、来年は地域の学校に就学する。対人関係に困難があり、半年かけてやっと通園できるようになったが、地域の小学校には知っている子どもがいない。できれば、障がい児は、地域の小学校に関連できる近くの保育園に就園できるように配慮していただけると良いと、強く思う。 ◆複数の子どもがいて、教育と療育を同時にする場合は、本当に大変。送迎の距離が長いと負担も増える。名古屋市の例では、移動支援があるようで、そのようなサービスがあれば、親の負担も減るし、子どもたちの気持ちにもゆとりが持て、こころが落ち着くと思う。送迎中

に痾癢を起すような子どもを、車に乗せて長時間運転することは本当に大変。

- ◆兄弟を一宮東に、児童発達支援センターに通わせている。低学年のうちは、時間割の都合で学校のバスに乗れないので、兄を必ず毎日送迎する必要がある。来年、弟が就園すると、9時から14時という障がい児枠での保育を希望したくても、兄の送迎の都合で、12時半に切り上げなければいけない。とても悩んでいる。障がい児枠だと、緊急時以外に延長は認められないそうだが、少し柔軟な対応をしていただけるとありがたい。
- ◆犬山市は施設に乗り入れしているところが非常に少ないと思う。一宮市では、支援学校があるからかもしれないが、乗り入れしている事業所が大変多く、驚いた。そのような整備を検討していただけるとありがたい。
- ◆送迎があればこの施設にでも預けたいわけではなく、やはり安心できる施設に通わせたいという思いがあり、親は送迎をがんばっている。市内の施設の内容を吟味していただいた上で、送迎の支援等も考えていただけると、本当にありがたい。

3 生活環境（移動・交通・住宅環境等）の充実について

- ◆園も学校も家から離れたところがあるので、近所の子どもとは知り合っていない。脱走して迷子になったとき、自分の名前も言えないので、地域で知られていないことがとても不安。
- ◆親が年をとっていったときのことを考えると、子どもの頃から地域で見守るような仕組みがないので不安。
- ◆子どもの特性上、地域との交流がない。地域のお祭等、人が集まる場所にも、迷惑になるので行けない。ただ、交流が必要だと思うこともある。
- ◆移動は、車の一択しかない。子どものうちは、公共交通機関は利用できないと思う。ガソリン代金も値上がり、車も消耗していくので、維持管理が大変。わがままかもしれないが、車の維持に何らかの支援がいただけるとありがたいと感じている。
- ◆災害時にも、知らない人がいる場所には絶対に避難できない。どのようにしたら良いのか、まったく分からない。
- ◆地域の人が障がい児への対応を学ぶ機会があれば良い。地域で助け合いたいという機運があれば、安心して生きていけると思う。啓発が大切だと思う。
- ◆避難計画は、アンケート調査で希望しなければ作られないので、例えば、療育手帳をもっていらっしゃる方には必ず出してもらおうとか、手帳を持っていなくても、希望される方には出すというような対応をとっていただけると良い。事業所と絡めた支援をしていただけるとありがたい。
- ◆災害時に、事業所に避難できるとありがたい。子どもが慣れている場所に避難できれば安心。利用者でなくても、近くにいる、避難が難しい人を受け入れていただけると良い。

4 スポーツ・文化活動の促進について

- ◆大勢が集まり、大きな音が出ている場所には居られないという特性のある子どもは、スポーツ大会への参加は難しいと思う。
- ◆身体を動かしたいのでスポーツをしたいが、発達障がいがあるので、習い事ができるかどうか悩んでいるという話を聞いたことがある。市で、障がいがある人も参加できるスポーツ教室を企画していただけるとありがたい。ただ、チラシが入るだけだと参加を躊躇してしまうので、「参加して大丈夫」ということを強く打ち出していただけると良い。
- ◆スポーツ振興会の方から誘っていただき、ボッチャの大会に参加した。初めての参加だったが、年配の方から子どもまでおり、いろいろな形の交流ができた。
- ◆市内の事業所が集まり行うイベントもある。
- ◆自立支援協議会の子ども部会で、他の事業所と交流する機会もある。少しずつ交流している。そのようなことを繰り返し経験することで、子どもたちも達成感を得ることができる。そこに、行政の支援が入ると良い。

5 情報アクセシビリティ（利用のしやすさ）について

- ◆他の施設の情報を得る手段は、保護者の方の口コミが多く、様子を聞かせていただける。仲良くなったお母さんに、他の施設の良いところを聞いて、見学に行ってみて利用するという感じで、広まっていくことが多いと思う。
- ◆新しい施設の情報を新聞広告等を見て、問い合わせたこともある。
- ◆児童館に行ったときに、支援員から情報を聞かせていただくこともある。
- ◆1つの情報が入ると、それを試してみるが、遠かったり、合わなかったりして、結局はその情報に振り回されただけになることが多いように思う。本当は、自分が選択できるほどの複数の情報が提示され、その中から希望のものを引き出せるような形が望ましいと思う。
- ◆保護者同士の交流が苦手な人は、情報が手元に届きにくいと感じる。東児童センター「さんにいれ」には、情報を付箋で貼っている地図があり、例えば、「良い公園がある」というような情報を見つけて、行ってみることができる。場所以外のいろいろな情報、例えば、「ごはんを食べないときには、このようにしたら良い」というような情報も、共有する場所があれば、自分が必要なものを引き出せて便利だと思う。
- ◆子育て支援の事業と、障がいの事業の両方があるが、担当者同士の連携はどのようになっているか。子育てにも障がいの分野のことが入ってくるでしょうし、障がいにも教育的な要素は入ってくるので、行政の横の連携として、情報を共有できることが必要だと思う。
- ◆広報に支援学校の学校説明会の情報が載っているが、それを見ないと知らない間に終了していたりする。「願書配布がこの時期にあるので、気を付けて」と親同士で注意し合っているが、WEB等での情報発信があればうれしいと思う。
- ◆ホームページに、子ども未来課と福祉課が共同で、子どもに関する手続き等の情報をまとめて載せることができると良い。すでにそのような記載もあるが、事業者も登録して、お持ちの情報も一覧で見られるようにすれば、大変便利だと思う。私は、子ども特性から施設を利用できないので、施設に情報があっても得ることができず、児童館等の支援員のお話も聞くことができないので、一覧でまとめてサイトに挙げていただくと、夜中の空き時間に携帯でさっと見ることができ、大変ありがたい。孤立した保護者が、情報もなく孤立し続けている可能性はある。「ここを見れば、子どもの情報は大丈夫」というようなサイトを早急に立ち上げていただくことを望む。
- ◆福祉課を最初に利用したとき、成育歴を詳しく記載したが、支援センターを利用し始めるときにも、同じような情報を記載した。病院に行っても、同じことを聞かれるし、学年が上がり学校教育課のお世話になるときにも同様。兄弟がいると、子どもの細かい情報も混同がちで、大変。マイナンバーも登録したので、一度記載した情報が連携されるように仕組みがあれば、大変ありがたい。
- ◆子どもの障がいがわかったときに、一番大変だったことは手続き。多くの課に本人を連れて行かなければいけないことが多く、たくさんの書類に記載するときに、子どもがいてとても大変だった。子どもを連れて行くなら、その場で記入するのではなく、あらかじめ記入したものを提出するという形にしていただけるとありがたい。検査と手続きを同時にすることは、本当に大変。一度、すべての情報を入力すると、複数の課で、その情報を共有していただけるようなシステムを望む。加えて、市役所と病院の情報連携があれば、大変助かる。
- ◆保護者の同意があれば、先に記入した情報を他の事業所も見られるというような仕組みがあれば、ありがたい。成長とともに内容が変わる場合もあるが、変わらない基本的な情報の部分だけでも、そのような対応をしていただけると良い。

6 雇用・就労の促進について

- ◆親がどれほど働きたいと思っても、送迎等の負担が多くて、働くことはできない。昼ご飯を食べる時間もない親もいる。働ける時間が少な過ぎて、雇ってくれる企業はないと思う。
- ◆親は育児で社会から分断されているので、働くことで社会とつながりたいと考えているが、それは不可能。

(5) 犬山市放課後等デイサービス利用の保護者

日時：令和5年9月1日（金）

1 福祉サービスの充実について
<ul style="list-style-type: none"> ◆市内にいろいろなサービスがあるので、自分の目で確認して、子どもに合うものを選ぶことができる。いろいろな経験をさせたいと思っているので、楽しんで行ける場所を選ぶことができている。 ◆送迎があるところとないところがあるが、親の仕事に都合上、できれば送迎があるとありがたい。例えば、送迎だけをしてくれる福祉の移動支援が併用できるのであれば使いたいと思う。実際に利用が可能なのかどうかは、分からない。 ◆他の保護者の口コミを聞いて見学に行くことが多いが、市役所から情報をいただくことはなかった。情報は自分で探していく必要があるので、ホームページ等に、「このような子どもは、このようなところが良い」というような情報付きの一覧が挙がっていると助かると思う。 ◆いろいろな学年の子どもが混じっているところもあるが、学年別に曜日が決まっているところもあり、月に2回通っている。そこでは学習面をみていただき、宿題や夏休みの課題の読書感想文や習字も持参すればみていただける。就学前には、着席して授業を受ける練習もしていただけて、学習に特化していると感じる。 ◆違う内容のサービス2か所に通っている。事業所の強みや特徴が、実際に利用しなくてもわかるような仕組みがあると良い。 ◆子どもの障がいがあったときに、まったく知識がなく、説明を受けても、「事業所」「児童発達支援」「放課後デイサービス」等の言葉の意味も分からない状態だった。年に1回でも、半年に1回でも説明をしていただける機会があれば、ありがたい。初めのころは、たくさんある放課後デイサービスのどこに行かせれば良いのか分からなかった。市役所の方も、「ここが良い」とは特定できないと思うが、事業所の特徴や、どのような子どもが利用しているのか等の情報を、説明会に事業所の方が来られて説明していただけるとありがたい。 ◆子どもが大きくなって、障がいが重くなると、ショートステイを希望通りには使えなくなると聞く。どこで手続きすれば良いのかわからず、結局利用できずに、親は休む時間もなくなると聞いた。高等部の親御さんは、休めるのは修学旅行のときだけで、例えば、てんかん等の病気があれば、修学旅行のときも、親が同行するという大きなストレスを抱えることになる。そのような状況が少しでも改善できる方法があれば良い。 ◆市役所のホームページを見てみたが、情報が一覧で挙げてあるとわかりやすいと思う。短期ショートでも使えるところの情報がわかるような仕組みが必要だと感じた。 ◆「ワンダフル・レインボー」というガイドブックに事業所名は書いてあるが、内容までは細かく書かれていない。 ◆特に子どもの障がい重度であれば、親はとても忙しいので、必要なときにすぐに情報が得られ、困ったときに頼ったり、相談したりできるものがあればうれしいと思う。
2 障がい児の療育・教育の充実について
<ul style="list-style-type: none"> ◆このような話を福祉課とできると思っていなかった。 ◆今でも支援学校の修学旅行に保護者がついて行く場合があることに驚いた。私の5年生の子どもは重度障がい、地域の学校に通っている。野外学習に行ったとき、初めて親と離れて眠ることになり、保護者の同行が必要になった。いくら障がいがあっても、そのような経験は必要で、いつかは親から自立していかなければいけない。学校側の人手の都合で難しいということは理解できるので、そのようなときに、福祉サービスが利用できれば、大変ありがたい。学校と福祉が連携して実現することを望む。今後は医療的ケア児や肢体不自由児でも、地域の学校に通いたいという方が出てくると思うが、修学旅行や野外学習のことで困ってい

る。兄弟がいると、さらに難しい状況であり、ぜひお願いしたい。

- ◆5年生の子どもは、野外学習には、何とか1人で参加した。事前に、先生と打ち合わせをした。初めての場所が苦手なため、1年生のときから、遠足は事前に家族で下見に行くようにしていた。行程表をいただき、歩くルート等も確認して実際に歩き、問題ないので大丈夫だと知らせていた。1年生のときだけは、学校から親も同伴してほしいと言われ、問題が起きればすぐにいられるように、離れて見ていた。親の仕事が休めない場合や、兄弟がいて出向けない場合は、市の福祉サポートが受けられると良い。
- ◆学校に人が足りないと感じる。支援学級の人数が増えており、先生は低学年の子どもにかかりきりになる傾向があり、高学年の子どもはひとりでがんばることになっている印象がある。
- ◆1年生のときから、交流学級にはひとりで行き、授業を受け、ひとりで帰って来なければいけない。先生がついてきてくれることはないが、トラブルが起きるのは交流学級が多いので、そこにサポートで入っていただけの方がいれば、トラブルが回避できると、ずっと考えていた。
- ◆プールの授業も、水の中まで一緒に入ってサポートして下さる方がいないと受けられないということで、参加できなかった。本人にも話して納得させたが、同級生がプールに入っているのに参加できず、かわいそうだった。
- ◆就学時に、支援学校か地域の支援学級かを悩んだ。地域の支援学級に就学したが、ときに友達を叩いてしまうようなことがあり、加配の先生がいていただけだとありがたいと感じていた。先生の数が少ないということで、対応は難しいと思う。
- ◆就学時前に何度か見学し、親からも保育園からも様子や特性についての情報を学校にお伝えしたが、トラブルがあった際に「以前にも、このようなことがあったか」と聞かれて驚いた。親として心配し、何度も伝え、先生方の負担も考えてお願いしたつもりだったので、情報が活かされていないことが残念だった。
- ◆支援級の中にいるときは、先生の眼があるが、交流級に行くときに、トラブルや移動中に転びやすい等の心配があるので、良い方法がないのかと考えていた。
- ◆介助員や支援員の存在がある。重度の子どもにしかつかれないかと思うが、介助員は身の回りのことをお手伝いして、勉強は教えない、資格を有しない方である。そのような方は、学校に慣れるまで必要な存在だと思う。介助員という存在が知られていないことを、ずっと教育委員会にお伝えしている。少しずつ動いていただけ、教育委員会も年中児の調査に出向き、地域の学校を選ぶ際に制度についての説明を、その場でしているということである。ただ、その情報だけではならず、地域の学校に行かせたいけれど支援学校を選んだ方もいる。利用できるサービスの見える化を進め、小さなころから選択できるような情報を届けて欲しいと思う。私も介助員の存在は、先輩ママからの口コミで知った。利用するときには、ほとんど使われていないサービスで、基本的には利用は肢体不自由の子どもだけにつけられていた。私の子どもの場合は給食がしっかり摂れていなかったもので、介助する目的で、学校が申請していただけたのだと思う。
- ◆子どもを知っていただきたいという思いで、地域の学校に入れた。先生方もご存じないことが多いので、市で利用できるサービスの一覧があれば良い。
- ◆支援員は教員免許をもった方で、市での面接等の審査を受けた方だと思う。
- ◆八王子市の「学校サポーター」が、テレビで紹介されていた。有償ボランティアで、育成講座等を受けた後に認定されるということである。人材バンクに登録し、学級に入って、教師と一緒に支援が必要な子どもをサポートするということがあった。例えば、障がい児の子育てを終えた方等の経験者がおられれば、安心であり、頼れると思う。支援学級の先生でも経験の浅い方だと、十分な支援が受けられないこともある。犬山市でも「学校サポーター育成講座」を実施していただけると良い。
- ◆子どもは高校1年生のため、就労のことを考えている。犬山市は就労先があまりにも少ないと感じている。一宮市の学校に通っているのですが、一宮市の情報は多く入るが、至る所に就労

先がある感じで、うらやましく思う。足がないので、犬山市内で就労先を見つけたいと思うが、不安。市役所からは一覧の冊子をいただいただけであり、具体的な話を聞きたいと思う。子どもによって、できること、できないこと、得意なこと、苦手なことがあるので、就労先を見つけることは難しいことだと思う。

- ◆就学時には、地域の学校に行くか、支援学校に行くか大変悩んだ。障がい児の数は多いのに、支援学校があまりにも少ないと感じた。支援学校や保育園をつくるには、周辺住民の反対もあり難しいのかもしれないが、近くにないので選択しにくいと思う。「みんないっしょ」と言いながら、みんないっしょではないと感じる。多くの人が障がい児のことを、もっと知りたいと思う。
- ◆犬山市の体制は不十分だと聞かすが、犬山市から離れる気持ちはないので、もう少し充実させてほしいと思う。

5 情報アクセシビリティ（利用のしやすさ）について

- ◆前市長のときには、市長のFacebookから情報を得ていた。
- ◆インターネットや知り合いのお母さんからの口コミから情報を得ることが多い。
- ◆口コミは参考になるが、丸ごと信用するのではなく、実際に自分の子どもに合うのかどうか、出向いて確認し検討している。
- ◆小さい頃は、当時の療育の親同士で情報交換しながら、良い場所などを教え合っていたが、ある程度大きくなると、子どもの個性が出てきて、特性も違うので、それぞれが必要とする情報も違ってくるのだと思う。
- ◆広い意味での口コミ情報と、保護者が以前から積み重ねた信頼できるネットワークは、少し違うと思う。
- ◆信頼できる相談先は必要だと思うが、情報が多過ぎても選択に迷うと思う。客観的な情報を取得しやすいように整えていただき、最終的には親が確認して決めると良い。

11 差別の解消と権利擁護について

- ◆他所から知り合いのない場所に引っ越してきたので、障がいのある上の子どもは子ども会にも入れていただけなかった。下の子どもには勧誘があったが、入らなかった。
- ◆小中学校は公立の支援学級に通ったが、毎年、春の説明会で、うちの子どもについての説明があり、理解を求めるような話があった。支援学級の子どもだとわかったとたんに無視されるようになることもあり、理解されずに毛嫌いされることもあるのだと分かった。話せば理解していただける方がいることも事実。理解していただけないことには慣れているが、やはり少しモヤモヤした思いはある。少しずつ理解していただけることが大切だと思う。高校生になったので、理解してくれる方も増え、親の知らない人とも知り合いになっていて、ありがたいと思っている。特に小学生のときには、偏見をもたれることが多かったように思う。
- ◆小学校の交流の中にも、グレーゾーンの子どもがとても多く、トラブル回避のために、座席は先生が決めるというクラスもある。数が増えたことで、理解が深まるかもしれないと思っている。
- ◆子どもが4年生のときに、学校に時間をいただき、学年全員の児童を集めて、夫がうちの子どもの障がいについての話をした。言ったら怒ることなど、特徴を説明し、トラブルの際には、子どもだけで解決しようとせず、先生に声をかけてほしいと伝えた。子どもたちに話をしたことで、子どもたちには理解していただけた。当時は、保護者に話をする勇気はなかったが、保護者全員に、同じ話をしても理解していただくことは難しいと思う。理解してほしいという思いもあるが、障がいのある子どもへの理解を求める機会は、どのようにすれば良いのか、分からない。
- ◆子どもの障がいについて話をすると、うなずいて理解してくれる方もいる。少しは理解してくれる人もいる。ただ、とても勇気が必要なことである。
- ◆まず、学校の先生に理解してほしいと思う。中には理解してくれている先生もいるが、昔な

がらの考え方で、子どもの特性を活かした方法ではなく、一律のことをさせたがる先生もいる。また、体育時以外はなかなか交流をさせていただかず、やっと最近、書写だけは交流級にトライすることになった。先生方の中でも、どのように扱えば良いのかという知識がないのだと思う。入学時に校長先生から、うちの子どもが就学することに反対する先生も半分ほどいるという話を聞いた。送迎の際にも、そのような印象を受けた。そのような小さい集団から、意識を変えていけると良い。